

岡山市歯科保健基本計画の目標項目に係る現時点での評価・課題

中間評価： ↗…改善、 ↘…悪化、 →…横ばい

		目標項目	再掲 ※重点的 対策	計画策定時 (H26年度)	中間評価時 (H29年度)	直近値	目標値	中間 評価	現時点での評価・課題		
重点的 歯科 口腔 保健 対策	歯と口の働き（口腔機能）の健全な育成、機能の維持・向上	中学生で歯列・咬合・顎関節に異常のない者の割合の増加		97.0%	96.8%	97.4%	R2年度	増加	↘	・咬合に異常のある中学生の割合は極めて少ないが、当該指標をもって口腔機能の健全な育成を評価するのは難しい。 ・ 口腔機能の低下が認められる高齢者が増加している。 オーラルフレイルに関する周知も含め、さらなる取組が必要。	
		「噛ミング30」運動の主旨を理解し、推進に取り組む学校園・保育所・事業所等の増加	保育所・幼稚園		4.3%	13.9%			50%		↗
			学校		16.2%	36.4%					↗
			事業所等		0%	0%					→
		60歳代における口腔機能の低下の認められない人の割合の増加		68.3%	54.1%	58.4%	R1年度	80%	↘		
	摂食機能療法を行う歯科医療機関の増加		50件	45件	10件	R3.12月	増加	↘			
	障害者（児）、要介護者の口腔の健康の保持・増進への取組	障害者（児）入所施設での定期的な歯科検診の実施率の増加		80.0%	93.3%			100%	↗	・障害者（児）入所施設や介護施設における検診の実施率は増加しているが、検診の結果、 必要な口腔ケアや歯科治療が受けられているか については、更なる現状把握が必要。	
		介護老人福祉施設・介護老人保健施設等での定期的な歯科検診の実施率の増加		28.1%	50.0%			100%	↗		
		歯科訪問診療を行う歯科医療機関の増加		219件	215件	237件	R3.12月	300件	↘		
		バリアフリー（スロープ・手すり）の歯科医療機関の増加		230件	218件			300件	↘		
→車椅子利用者への配慮（施設内のバリアフリー化の実施）をしている歯科医療機関					7件	R3.12月					
ライフ ステージ に応じた 歯科 口腔 保健 対策	乳幼児期	「噛ミング30」運動の主旨を理解し、推進に取り組む学校園・保育所・事業所等の増加	保育所・幼稚園	○	4.3%	13.9%		100%	↗	・フッ素塗布を受けている幼児の増加により、 乳歯のむし歯は減少 している。 ・5本以上の乳歯のむし歯を持つ3歳児は減少している。一方で、10本以上のむし歯を持つ3歳児も一定数存在している。	
		3歳児でむし歯のない児の割合の増加			78.1%	81.0%	87.1%	R2年度	90%		↗
		3歳児で定期的にフッ素塗布を受けている幼児の割合の増加			57.6%	63.7%	67.4%	R2年度	70%		↗
		フッ素洗口を実施している幼稚園・保育所の増加	幼稚園		9	9	2	R2年度	増加		→
	保育園			6	9	4	↗				
	学齢期	中学生で歯列・咬合・顎関節に異常のない者の割合の増加		○	97.0%	96.8%	97.4%	R2年度	増加	↘	・中学校1年生までに、永久歯が4本以上むし歯になっている生徒の割合が若干増加している。また、歯肉に炎症所見を有する中学生の割合は若干減少傾向にあるが、 永久歯のむし歯予防や歯周病予防につながる施策が十分とは言えず、対策が必要。
		「噛ミング30」運動の主旨を理解し、推進に取り組む学校園・保育所・事業所等の増加	学校	○	16.2%	36.4%			100%	↗	
		中学生における歯肉に炎症所見を有する者の減少			20.3%	21.1%	19.4%	R2年度	減少	↘	
		12歳児の一人平均むし歯数の減少			0.72本	0.54本	0.61本	R2年度	0.3本	↗	
		フッ素洗口を実施している学校の増加	小学校		10	8	3	R2年度	増加	↘	
中学校					1	→					
成人期・妊娠期	過去1年間に歯科検診を受診した人の増加			29.5%	45.1%			65%	↗	・定期的な歯科検診の受診者数や歯数が維持できている人は増えている。一方で、成人期は歯周病の発生時期（罹患する時期）であり、未処置のむし歯保有率が高いとの報告もあるため、 定期的な歯科検診からむし歯予防・歯周病予防に確実につなげていく施策が必要。	
	成人の喫煙率の低下（喫煙をやめたい人がやめる）			18.1%	14.7%			8%	↗		
	「噛ミング30」運動の主旨を理解し、推進に取り組む事業所等の増加		○	0%	0%			8.5%	→		
	40歳で喪失歯のない人の増加（35～44歳）			72.7%	78.0%			80%	↗		
	歯周病を有する人の割合の減少（40歳代における進行した歯周炎を有する人の減少（40、45歳））			48.1%	51.5%	64.5%	R1～2年度	25%	↘		
60歳で24本以上の自分の歯を有する人の増加（55～64歳）			64.6%	76.9%			80%	↗			

		目標項目	再掲 ※重点的 対策	計画策定時 (H26年度)	中間評価時 (H29年度)	直近値	目標値	中間 評価	現時点での評価・課題
ライ フ ス テ ー ジ に 応 じ た 歯 科 口 腔 保 健 対 策	高齢期	60歳代における口腔機能の低下の認められない人の割合の増加	○	68.3%	54.1%	58.4%	R1年度	80%	<ul style="list-style-type: none"> ・口腔機能の低下が認められる高齢者が増加している。オーラルフレイルに関する周知も含め、さらなる取組が必要。 ・訪問診療や施設のバリアフリー化など、高齢者に対応できる歯科医院の増加に向けた取組が必要。 ・介護施設における検診の実施率は増加しているが、検診の結果、必要な口腔ケアや歯科治療が受けられているかについては、更なる現状把握が必要。 ・訪問診療や施設のバリアフリー化など、要介護者に対応できる歯科医院の増加に向けた取組が必要。 ・企業における歯科検診は法定健診でないため実施率が低い。事業者に対して歯科検診の実施を働きかけるなど産業歯科保健との連携が必要。
		過去1年間に歯科検診を受診した人の増加		29.5%	45.1%			65%	
		摂食機能療法を行う歯科医療機関の増加	○	50件	45件	10件	R3.12月	増加	
		歯科訪問診療を行う歯科医療機関の増加	○	219件	215件	237件	R3.12月	300件	
		バリアフリー（スロープ・手すり）の歯科医療機関の増加	○	230件	218件		R3.12月	300件	
	→車椅子利用者への配慮（施設内のバリアフリー化の実施）をしている歯科医療機関	○			7件				
	要介護者	介護老人福祉施設・介護老人保健施設等での定期的な歯科検診の実施率の増加	○	28.1%	50.0%			100%	
		歯科訪問診療を行う歯科医療機関の増加	○	219件	215件	237件	R3.12月	300件	
バリアフリー（スロープ・手すり）の歯科医療機関の増加		○	230件	218件		R3.12月	300件		
→車椅子利用者への配慮（施設内のバリアフリー化の実施）をしている歯科医療機関		○			7件				
歯と口腔の健康づくりを支え、 守るための環境づくりの推進	「噛ミング30」運動の主旨を理解し、推進に取り組む学校園・保育所・事業所等の増加	保育所・幼稚園	○	4.3%	13.9%			50%	
		学校		16.2%	36.4%				
		事業所等		0%	0%				
	歯科訪問診療を行う歯科医療機関の増加	○	219件	215件	237件	R3.12月	300件		
	バリアフリー（スロープ・手すり）の歯科医療機関の増加	○	230件	218件		R3.12月	300件		
	→車椅子利用者への配慮（施設内のバリアフリー化の実施）をしている歯科医療機関	○			7件				
	職場で歯科検診を行っている事業所の増加		1.3%	3.2%			15%		